

OMC事務局 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原 一夫 TEL06-6833-9227
 広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田 茂夫 TEL072-850-5781
<http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/>

平成16年2月(2004年) No.458

新しいプロジェクターで新年例会 さっそくハイビジョン映像に溜息

梅田での会場では、プロジェクターを借りて作品を上映していましたが、画質の点で不満が多く、解決策としては自前のプロジェクターを持つ必要があるとの結論に達していました。一方、ロッカーの収納スペースの関係で、梅田での例会続行は難しく、種々検討した結果、難波市民学習センターに2月から会場を移ることにしたのは既報の通りです。1月例会は梅田での最後の例会でしたが、新しく購入したサンヨーのZ2型プロジェクターを使用、前田会員のハイビジョン映像に、皆うっとりしました。その他ワイド作品も出て新しい時代の幕開けの感がありました。2月からは横長の大スクリーンが使えますので、更に鮮明で美しい映像が楽しめる筈です。

なお2月より難波会場の大型ロッカーの使用が許可されましたので、OMC備品のDVデッキ、プロジェクター、スピーカー1組共々収納できる筈です。機材担当の世話役さん、よろしくお願いします。

新年会は29名の会員さんで盛上がる

今年の総会兼新年会は第3日曜日、午後の新年例会に続き、夕刻よりスーパードライ阪神で開催しましたが、何と29名の多くの型が参加されて盛上がりしました。例会後の二次会では、いつも居酒屋組と喫茶店組に別れて夫々やっていましたが、こうして一堂に会して食事を楽しみ、会話がはずむのもいいものだと思います。来年も日曜日の例会と新年会で予定したいと思います。

■コンテスト入賞おめでとうございます

第15回とよたビデオコンテスト 優秀賞 仏を彫る 有村 博さん

2月例会は難波で開催

2月例会は28日(第4土曜日)午後6時より難波学習センター(JR難波駅上OCATビル4階)にて開催します。お間違いないようお願いします。楽しい例会へどうぞ。作品もよろしく

■訂正のお詫び

前月号のOMCニュースで「例会活動過去5年間の推移」表のうち、会員数が違っていました。正しくは次の通りです。

平成11年度→会員数35名

平成12年度→ " 37名

平成13年度→ " 41名

平成14年度→ " 37名

平成15年度→ " 40名

また、例会全出席者のお名前のなかで、渡辺さんが抜けていました。

■名簿訂正のお詫びの中で、玉井さんの名前の「勻(ひとし)」の字が再び抜けていました。また、電話番号の再訂正があります。

森口吉正さん→ 正 072-845-1883

松本 昭さん→ 正 072-831-5341

何度もすみません。訂正お願いします。

10年前との比較で驚く

昨年度の例会記録では、出席者 26.1 名 作品出品数 12.3 本、年間作品 146 本に対し、10年前の例会記録では、出席者 13.1 名、作品出品数 5.8 本、年間作品数 64 本と、およそ半分でした。もっともまだフィルム時代のことで、ビデオになりかけのオーバーラップして作られていた頃でした。

あれからビデオ時代になって急速に例会も盛り上がってきて今日の盛会ぶりになってきたことは喜ばしい限りです。

1作品の長さは、10年前は8分54秒で、昨年度の作品では8分23秒ですから最近の作品はやや短くなったとはいえ、それほど差はないようです。もっともドキュメンタリー作品に絞りますと11分42秒と長めになっています。以上10年前の例会記録から最近の作品の長さについて考えてみました。

1月例会レポート

1月例会は梅田での最後の例会で、新しいプロジェクターを使って開会しました。

司会、合原さん、書記、安居さん、機材担当、江村さんと増池さん、受付兼照明係は奥さんと渡辺さんの担当で進行しまし

た。

◆出席者：今井、江藤、江村、岡本、奥、上総、勝、金子、紙本、河合、小竹、合原、進藤、関、中尾、那須、西村、藤原、前田、増池、松本、宮崎、森口、森、森田、安居、吉岡、渡辺の28氏と作品本数12本でした。夜の新年会には西野譲治氏が参加されました。

■上映作品(今月の講評担当は安居世話役です)

1. 光のルネサンス

増池 茂さん 7分40秒

大阪中之島の市庁、中央公会堂を中心に光のページェントが開かれていました。冬の夜という環境が木々や建物に当てられた光のビームの動きを際立たせています。BGMがよくあっています。流れていた現場音だそうです。神戸のクロモリットはプロジェクターの投影で建物を彩色した静止画でした。今回は光のビームをBGMにあわせて動かすPCによる演出です。それをアップやワイドを使いながらうまく編集されています。タイトル光のルネサンスにぴったりの作品でした。

2. バンフ国立公園

那須 典彦さん 5分27秒

海外のことは全く知らない筆者にとってもカナダ最初の国立公園でその中にあるボウ滝がマリリンモンロー主演の「帰らざる河」の舞台と聞けば興味がわいてきます。せせこましい日本の都会から見ると「別天地」という言葉さえ逆に白々しく思える程です。最近那須さんは何故かナレをお入れになっていますが、これによって本来のきれいなカットがすごく身近に感じます。出来ればこれからもナレを入れていただくことを切望します。

3. 太陽公園のなぞ

安居 利次さん 5分10秒

兵馬備や五百羅漢、天安門広場、など太陽公園にあるレプリカはみんなほとんど等身大なのですが、見ていただいた多くの方からミニチュアと思ったと聞いていかに筆者の表現力が拙いか自己嫌悪に陥りました。いくら経営の謎をテーマにしたつもりでも基礎的な描写力が欠けているのでは話

にならないと反省しています。

4. 秋の葉

江村 一郎さん 3分12秒

新年宴会の時、この作品のメイキング話を江村さんから聞きました。3分12秒は8mmフィルム1本分の時間、今は1時間DVテープにとって3分にまとめる、夢のようでもあるが当時の真剣さもなつかしいと。お話を聞きながら落ち葉を燃やすカットをエンディングにもってこられた編集の感性はすばらしいと思います。今回、煙のカットは何回撮ったことかという述懐を聞きフィルム当時の真剣さは形を変えて江村さんの体に脈々として伝わっているのだと驚きました。

5. だんじりのまち岸和田

吉岡 貞夫さん 9分35秒

他のクラブの撮影会作品です。入賞されただけあって力のこもったすばらしいものです。初めは岸和田の町の紹介ですが、途中、だんじり会館での大工方の若者のインタビューがあり作品の中だるみを補強しています。後半はだんじりのやりまわしを俯瞰と低位置からのカットをうまく組みあわせて一気にフィナーレに持ち込む構成は見事です。岸和田映像クラブ提供のテープをうまく使われています。出来れば、前半タイトル画面の「つかみ」に続く盛り上がりのカットが欲しかったと思います。そうすることによって前、中、後と一層リズムのある作品になるのではないのでしょうか。

6. やっさいほっさい祭

紙本 勝さん 10分15秒

紙本さんは「火の祭り」を撮らしたら右に出るものがないというだけあって見事な作品です。前半の祭りの由来も何故寒い時にするのか何故火祭りなのか、と言う疑問に答える形で社務所の人の話があるので、見ていて納得できます。後半の「火渡り神事」はすごい迫力です。よくもまあ撮られたと思うカットがたくさんありましたが、裏話を聞くと何回となく突き飛ばされたそうでそんな苦勞を乗り越えての作品だったのかと氏の火祭りにかけた執念が滲み出しているようで再度感心しました。やっさいほっさいの作品は今までに幾つか見ました

が、紙本さんののが最高と思いました。

7. 鯖街道の名水

森口 吉正さん 8分

森口節ともいえる名調子のナレを聞きながらそれに合ったきれいなカットを見ていますと思わずうっとりと作品の中に感情移入されてしまいます。名水シリーズを数多く作っておられると観客を引き込む手練手管は僭越ですが自然に身についたように思えるのです。これは決して皮肉で言っているのではなくプロ作品にどこか一脈通じるものであるといたいのです。名水シリーズは完璧です。このあたりで身につけられた業(わざ)を根底にすればどんな題材でもこなせるのではないかと思います。今年は気分を変えて別のテーマにも挑戦してみられたら如何でしょうか。

8. 清水寺界限(ハイビジョン)

前田 茂夫さん 6分19秒

この画像が注目のハイビジョン画面です。その鮮明な画像にみんなびっくりです。640×480の分とは違います。鮮明とかきれいとか言葉や文字で表せないもの、次元が違うとしかいいようがありません。ソースがハイビジョンカメラ、投影がD4対応のプロジェクター、われわれがあこがれてもまだまだ遠い設備です。でも技術革新のスピードは早く、値段が下がって、PCのようにアット言う間に身近なものになって取り扱わなければ、おいてけぼりにされそうな不安にかられます。テープの記録方式がaviではなくmpeg 2 編集ソフトも新しいものと入れ替えとなると、高齢者にとっては技術革新のスピードよ、もっとびっくりと願わずにおれません。

9. USJクリスマスの頃

奥 宏さん 9分8秒

最近大阪周辺の催しものをこまめにお撮りになっています。作品を作ろうという意欲が感じられます。今回はUSJ場内の様子です。前半は入場者の生態を中心に、後半は催しものを中心に面白く拝見しました。USJのビデオは時々拝見しますが、「クリスマスの頃」と期間限定にすることは意図としてよかったと思います。ただこれまでの作品のようにもう少し時間を短く

しモチーフ以外のカットを省く事によって全体が引き締まった作品になるのではないのでしょうか。

10. 山鹿灯籠風物詩

森 保信さん 14分10秒

司会が言っておられたように見ごたえのある大作です。8mmフィルム時代から蓄えられたノウハウが作品の全部ににじみ出たという感じです。プロのナレが大作を引っ張っていきます。14分の時間を感じさせません、構成とナレの原稿を考えられた森さんはさすがベテランだと思いました。山鹿の町の紹介から灯籠作りそしてヨヘホの踊りのラストへの盛り上がり、それはタイトルの山鹿灯籠風物詩そのものでした。

11. 火床の炎 (未完)

江藤 洋司さん 4分53秒

ドキュメントに挑戦される意気込みに感心しました。まだこれから続きをお撮りなるそうですが完成が楽しみです。基本的にはカットのつなぎで出来るまでを表現して頂き、間にダンボールを燃やすことで火入れの温度をうまく調節するのが極意とかインタビューを交えながら見ているものがあるほど納得できれば一番いいのですが…まだ江藤さんの頭の中だけの理解で終わっている処が沢山あるようです。でもすごいですね。いいテーマを見つけられました。足しげく通って数多くのカットを拾い第三者もよくわかるという作品に仕上げてください。

12. 白鳥の詩 (ワイド)

進藤 信夫さん 4分50秒

これからはワイドの時代だといわれています。画面が16:9になると対象の撮り方もおのずから変わってくると思います。進藤さんも前回に続いてワイド画面に挑戦されています。今回はワイドに適したテーマをうまく選ばれたと感心しました。ワイド入門は対象を選ぶことから始まりです。私達も時々いい対象が見つければワイドで撮る練習もしなければ…と思います。新しいことをやるには経験とそれにもとづく感が一番大事なので、ビデオを趣味にしているのですから高齢者もプラス思考でいきましょう。

■ハイビジョン映像を見た感想

担当 前田

会で自前のプロジェクターを購入したそのお披露目の1月例会で、ビクターGR-HD1のよるハイビジョン映像を上映できたことは非常に嬉しいことでした。昨年9月にハイビジョン映像を超高速ブロードバンドでインターネットに公開しましたが、視聴出来るのはPCの液晶画面の中だけのみ。液晶画面で見ても、確かにDV映像とは比較にならない精緻さは感じましたが、所詮PC上での映像です。これを大きなハイビジョン受像機で見たいと当初から思っていました。拙宅のSONYアナログハイビジョン受像機で見ると、正直言って汚い映像でした。輪郭はキッチリ出ていますが、画面が全体にザラザラしていても正視できるものではありません。1280×720ドットの映像を、無理やり640×480ドットに落とすと荒れてしまうのかな…と残念に思っていました。

プロジェクターにも色々あって、以前のはハイビジョンに未対応です。しかし今回OMCで購入したのは、1280×720ドット、D4端子付ハイビジョン対応です。このプロジェクターで映写したハイビジョン映像の精緻さは驚くばかりでした。このような緻密で綺麗な映像をアマチュアでも扱える時代になったことは素晴らしいことです。確かにこのハイビジョン映像を扱うには、今月の講評にもあるとおり、なかなか大変です。まず、現時点ではカメラの価格も最高の水準にあります。しかし、ビクター、SONY、キャノン、シャープの4社連合による統一規格の製品が登場し始めたら、経済の原則で合理的な価格にこなれていくでしょう。編集ソフトは、プレミア、メディアスタジオとも対応版出来上がっているようです。カメラが発売されればすぐに登場するでしょう。かつて私達はHi8が最高だと思っていたが、DVの登場でアッという間に席卷されました。HDVが受け入れられるかどうか、これから数年間の動向が大きな鍵を握っています。私達も今から心の準備はしておかれるほうがよいと思います。